

「薬が効かない細菌」って知ってる？ ～見えない脅威を科学で見張る

抗菌薬が効かない？「薬剤耐性菌」とは何か

抗菌薬（抗生物質）とは、病気の原因となる細菌を壊したり、増えるのを抑えたりする薬ですが、薬が効かない「薬剤耐性菌」が増えています。薬剤耐性菌による感染症は、薬が効きにくく、治療が難しいため、流行状況をいち早く察知することが重要です。

当センターでは、様々な抗菌薬が効かなくなった「カルバペネム耐性腸内細菌目細菌」や「多剤耐性緑膿菌」をはじめとする薬剤耐性菌が、「なぜ薬に強いのか（どのような耐性遺伝子を持っているのか）」を解析し、県内での広がりを科学的に見張っています。そして、その結果を医療機関等に知らせることで、感染拡大防止に役立てています。

【検査の様子】



薬剤に耐性があるかはどうやって調べる？

調べたい菌を塗った寒天培地に、抗菌薬を含ませたディスク（小さな紙）を置いて調べます。薬が効けばディスクの周りの菌はいなくなり透明な輪ができますが、耐性菌の場合は、ディスクのすぐそばまで菌が増えます。

薬が効かず、ディスクの
周りまで菌が育っている

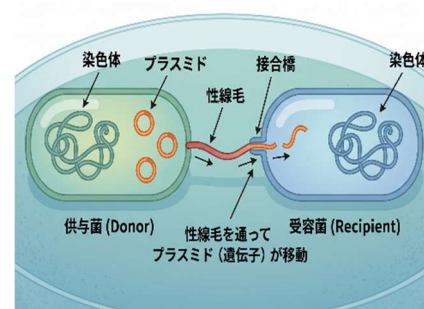


耐性菌 感受性菌
(薬が効かない菌) (薬が効く通常の菌)

耐性菌はどうやって生まれる？ ～気をつけたい薬の使い方～

抗菌薬をむやみに使ったり自己判断での中断は、体内の菌の耐性化を招きます。さらに、細菌は「薬を跳ね返す力」（耐性遺伝子）を、他の細菌へ簡単に渡すことができます。図のように、細菌同士がくっついて耐性遺伝子をコピーして「直接渡す」ほか、ウイルスが「別の細菌へ運ぶ」こともでき、今まで薬が効いていた普通の細菌が、一瞬で耐性菌に代わってしまいます。

病気を起こす菌にまで「薬を跳ね返す力」が広がらないよう私たちにもできることがあります。



【私たちにできる予防策】

- ☑️ 処方された抗菌薬は、途中でやめず最後まで飲み切る
- ☑️ ⑤ ただの風邪に抗菌薬を求めない
- ☑️ ⑥ 手洗いやワクチンで感染を防ぎ、薬を使う機会を減らす

※ 徳島県感染症情報センターのホームページでは、薬剤耐性菌や身近な感染症の発生状況を毎週更新しています。ぜひ一度ご覧ください。

